

日大藤沢同窓会報

第29号
 日本大学藤沢高等学校・藤沢中学校同窓会
 事務局：〒252-0885
 藤沢市亀井野1866
 TEL. 0466-81-0123
 FAX. 0466-83-2161
 発行責任者 坂井 太
 編集 会報編集委員会

就任のごあいさつ

「日藤とのつながり「日藤ウェイ」」



同窓会会長 坂井 太

今年度より同窓会会長を拝命いたしました坂井太と申します。私は昭和六十一年に日本大学藤沢高等学校を卒業し、現在は横浜市議会議員を務めさせていただいております。伝統ある母校の大先輩や後輩の方々を前に、嬉しく思うとともに大

変緊張しております。実はわたしは中学時代いじめられっ子でした。今考えますと、自分に自信が持てず、自分を主張することができなかったことがその一因であつたように思います。しかしそんな私も高校進学を機に生まれ変わることができました。今風に表現すれば、「高校デビュー」とも言うのでしようか。それ

といふのも、日藤という学校がさまざまに生徒を大きく抱擁する、懐の深い学校であつたからだと思います。キャンパスの広さ、生徒数の多さといった環境だけではなく、先生方にも実に温かく、そして厳しくご指導

いただいたことで、私は一転して自信を持って、はっきりと自分を主張できるよになり、のびのびとした学園生活を送ることができました。また、一生信じあえる友達とも出会い、今でも年に何度か酒を酌み交わしています。

社会に出てからも、数多くの先輩・後輩と交流を持たせていただく機会に恵まれました。公式の場で会い互いに緊張をしていますが、母校と同じだとわかるとなぜか私の肩をパシッとたたき、「なんだ、お前も日藤か」と笑顔でお付き合い下さる先輩が多く、お陰様で仕事もスムーズに運びます。親しみ深く、同窓の者に対して非常に温かい、これは「日藤ウェイ」とも言え

よいのでしようか。私自身も後輩に出会った時には気が付くと「日藤ウェイ」でお付き合いさせてくださいたいと思います。長い伝統を誇り、多くの人材を輩出している母校日大藤沢高等学校ですが、その一員たるわれわれ同窓会があるべき姿とはどのようなものでしようか。私は同窓会とは校友のため、そして在校生のため存在しているものだと考えています。ですからまず、何よりも現役の生徒たちのために力を合わせ、尽力していくことが大切なのではないでしょうか。

今日も現役の生徒たちは笑いあい、涙を流し、汗をかいて勉強や部活動に励んでいます。私たちがそうであつたように、きっと彼らのそ

うした一日一日が彼らを育て、いつの日か振り返ったとき日藤の生徒であつたというのを誇りに感じるのだと思ひます。同窓会として、今の若者を慈しみ育てる、ということにかつての自分と同じ学び舎に集う彼らへ思い、支えていくことではないかと思ひます。彼らの本分である勉強と部活動を大いに応援していきたく思います。

もちろんそれだけではなく、より多くの卒業生同士、卒業生と現役生が交流を持ち、同窓生として手を取り合つて社会を築いていくことも重要でありま

よう。同窓会として、そのような場を一つでも多く提供し、母校の名に恥じない人の繋がりを作つていくこともまた、大切な役割であるように思ひます。

大役を拝命したとはいえ、大先輩から見ればまだまだ若造であり、歳の近い方々から見ても何かと頼りない私ではあります。日大藤沢同窓会の歴史を積み重ねるべく、精一杯努力させていただきます。どうぞ今後とも「日藤ウェイ」で見守り、ご助力を賜りますようお願い申し上げます。

目標を持ち、それに向かって最後まで諦めない生徒に

学校長 押尾 良仁



早いもので、平成二十八年度がすぐそこまで来ております。平成二十五年に本校に赴任させていただき、やっとなつと日藤のやり方に慣れてきたと思つた昨年四月より、前校長・小松実先生の後を引き継ぎ、校長を拝命し一年が経とうとしております。私のような

者が、何とかこの一年を無事に務めさせていただいたのも、教育熱心な教職員の方々と優秀な生徒達、そして母校にご支援、ご協力をいただいたおかげです。同窓会の皆さまのお蔭で、心より感謝申し上げます。ご存じのとおり、母校日藤の二十七年度は、小学校の開校に始まり、小さな子供といふよりは、コビトたちの見

慣れない登下校の風景に目を細める毎日です。日藤小の一年生は、英語を勉強し、漢文もそらんじております。私たちの子供の頃とは大違いで驚きました。日藤中高の四月は入学式直後の中一・オリエンテーション合宿(箱根、二泊三日)、下旬の中一以外

の校外学習でクラス・学年の親睦を深めて新年度のスタートを切りました。六月には日藤祭。そして、七月の高三・歌舞伎鑑賞会、水泳・球技大会を終えて夏休みとなりました。夏休み中にも行事は満載でした。高三・勉強合宿(山中湖、五泊六日)、中二・林間学校(富士登山他、三泊四日)、中三・高一・高二の海外語学研修(オーストラリア、十六日間)、特別講習会など。

九月になると、箱根や桜島に続いて阿蘇山までもが怪しくなり、十月の中三・九州修学旅行に若干のコース変更を強いられることになってしまいました。同じ頃、高二はカナダ・アメリカへ修学旅行(五泊七日)でした。

十一月の新装NFグラウンドでの二回目の体育祭は、新種目も加わり盛り上がりを見せました。校内での芸術鑑賞会では講談、落語が催され、十二月の柔・剣道・球技大会を経て冬休み。一月、中学百人一首大会、高校推薦入試、全校マラソン大会(こどもの国)。

二月、中高入学試験、合唱コンクールと慌ただしさの中を抜けると、三月二日の高校卒業式を迎える時期となつてしまいました。あつという間に一年の日々が流れ、数百名の生徒たちが同窓生として日藤を巣立っていきます。いつまでも、母校日藤

を愛してくれることを願つてやみませぬ。社会へ出て、先輩たちのお世話になつていきたいと思います。また、先輩方が現役の高三で受験された日大推薦入試の「付属統一テスト」は、昨年でその付属推薦入試の歴史のページを閉じることとなりました。今年度の卒業生から、「基礎学力到達度テスト」というテストを各学年の四月と高三の九月に、付属生が一斉にそのテストを受け、高二と高三で受験した三回分の合計成績で全付属順位をつけ、それを用以て日本大学の各学部

へ推薦する方式に変わったのです。当然のことですが、各学年の勉強をコツコツと積み上げていかなければならぬとなりました。高一の早い時期から自分の進路に対し、今までの進路に将来の目標を意識させる学習指導、進路指導が重要となつてまいります。始業式や終業式の度に、「節目節目の反省を必ず行い、悪かった点においては改善と努力すべき点を明確にし、また、良かった点はさらに伸ばしていけるようにさらなる改善と努力すべき点を明確にして、必ず実行すること。めんどうくさいと思わない

平成28年度同窓会 総会・懇親会のご案内

定例総会と懇親会を、生物資源科学部NUBSホール(予定)において開催いたします。

総会の案内状がお手元に届かない場合があるかと思いますが、

同級生およびクラブ活動等の卒業生をお誘い合わせの上、ご出席くださいますようご案内申し上げます。

記

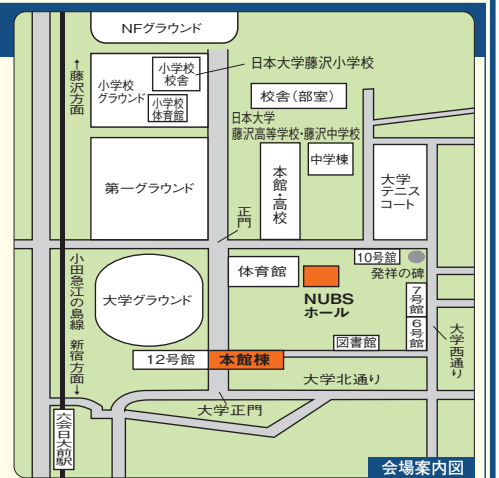
■ 日時 平成28年5月下旬(予定)※

■ 場所 総会・懇親会
日本大学生物資源科学部NUBSホール(会場案内) または、本館棟 地下1階食堂(予定)※ (会場案内を参照)

■ 会費 一人 3,000円

※開催日時及び開催場所につきましては決まりましたら、下記ホームページにてお知らせいたします。予めご了承ください。

●ホームページ <http://www.fujisawa.hs.nihon-u.ac.jp/>



同窓会長を

退任して想うこと

前同窓会長 加藤 正美



同窓会・学校関係者の皆さまこんにちは。同窓会長在任中は皆さまに公私共々にわたり大変お世話になり感謝を申し上げます。昨年、同窓会長を退任して早いもので十カ月が過ぎようとしています。この間、同窓会長として六年間を振り返ってみます

と現職の時は非常に長く感じました。が、今ふり返ると短く感じられました。しかしながら、在職中は先輩方や同窓生の皆さま方いろいろなことをご指導いただき、自分自身の糧になったことが非常に多かった。この人生を有意義に過ごすことができると思っています。さて、日大藤沢高等学校・中学校は神奈川県有数の

りませぬ。日本大学の附属高校・中学校の使用命なのか、日本の大学の進学者が非常に多くなっているのは易化したくないがさらなる躍進を目指すには、国立の上位校への進学率をアップさせる必要はなさらずに、他校に抜き去られてしまふことが心配です。今後、硬式野球や昨年全国大会でベスト4に輝いたサッカー部など、マスコミに取り上げられるスポーツ強化などにより学校全体のレベルアップを目指すの

も一つの方向と考えられますが、学校の方針があるの個人的な意見として一言加えさせていただきます。わが同窓会は学校設立六十年余りの伝統を誇り三万四千人余りの同窓生で構成されていますが、毎年通常総会の出席者が固定化され、同じ会員が参加しているのが現状です。これは私が在職中に力不足で底辺の拡大ができず、出席者を増やすことができなかった結果ですので、この紙面をお借りして会員・学校・関係者の皆さまにお詫びを申し上げます。

す。今後は、坂井太新同窓会長の下、私が実現できなかつた組織拡充を新会長・新役員の人脈や部活のOB・OG会のあらゆる組織に働きかけていただき、私も同窓会長経験者として会員皆さまと協力してさらなる組織拡充を一会員として行う所存です。今後、日本大学・日大藤沢高等学校・中学校・小学

退任にあたって

益々の発展を祈る

前学校長 小松 実



平成二十七年度もまもなく終わろうとしています。昨年三月末日を退職いたしました。から、もう一年になろうとしています。平成二十三年四月の着任以来、四年間の在職中は

同窓会の皆さまには多大なるご協力とご教示をいただき心より感謝申し上げます。私が着任した平成二十三年は三月十一日に東日本大震災が発生し、未曾有の大災害に見舞われた年でした。前任校では四月の着任を前に、東日本大震災の対応などで多忙を極め、あわただしい中で

着任したことを覚えていません。四年間の在職中もいろいろなことがありましたが、着任してからも、中学校棟が竣工し、それまで高校生も学ぶ本館で授業を受け、新しい中学生が、動し、日本大学藤沢中学校の新たな一歩が始まりました。また、大学か

この四年間いろいろな面で多くの方々にご協力をいただきながら学校運営に携わってまいりました。これまでも、同窓会をはじめとする皆さま方のお陰であるとお礼申し上げます。四年間という限られた期間ではありましたが、日本大学藤沢高等学校・藤沢中学校に勤務できたことは幸せだ

つたと思っております。これから高校・中学校・小学校にも激動の波が押し寄せてくることもあるかと思ひますが、教職員の方々の力を信じ、日大藤沢のますますの発展を願っております。そしてその発展のために同窓会の多大なるお力添えをお願いいたします。最後に、同窓会の皆さまの健康を祈念し、退任の挨拶とさせていただきます。

友情の絆を結ぶ 同期会

同じ学舎で青春を謳歌した同期生。再会し、昔を回顧し語り合う楽しさ、再び友情を確かめ合うのが同期会です。同期会での結束が同窓会の発展にもつながります。ぜひ、皆様も積極的に同期会を開きましょう。



第九回生(昭和三十五年卒)『卒業五十五年記念』第十五回同期会(懇親会)

桜藤求希会会長 松本 誠一郎(昭和35年卒)

平成二十七年十月二十五日、秋冷の箱根湯本「ホテルおかだ」において盛大な記念懇親会を開催しました。村山幹事長を中心に多忙の中、準備委員が打合せを重ね、卒業五十五年の記

念でもある由、例年より少しばかりにぎやかに箱根太鼓・詩吟などの余興を組み入れ、予想以上に盛り上がった素晴らしい懇親会となりました。特に花を添えて

くれたのは、なんと新湯から新幹線で駆け付けてくれた、卒業後、初参加の友でした。また新たな一歩となりました。会話の弾む笑顔は、懐かしく嬉しく、そして若々しくまさに、青春時代の真ん中でした。歳も時

恵を絞った結果、ならば千余の長寿を願って「仙台枝垂れ桜」を予定しました。恩師はそれを大変喜ばれ、母校の発展を念じた「証」を感じたこととを覚えていきます。そして、次のメッセージをわれわれ九期生に送って下さいました。

「皆、一人前になったのだ、しかしまだわれらは青果であり、先があり希望がある。希望を求める事を求む「九期」と云えるが人生の目的は「ふる里を訪ねること」と親鸞聖人は云った。ふる里は何処かと尋ねれば、それは幼き日からの学舎である。われらの学舎、日藤には千代(仙台)桜が生えている。その桜の下に集うわれらは永久の韻友でありこれぞロマンの友である。ここに九期生を「桜藤求希会」と命名す。日藤桜」と命名す。以上が「桜藤求希会」誕生の謂れです。以後、毎年恩師の意を皆で共有、尊重し「湘南日藤桜」の下に集い、われらの健康を祝いながら、桜の成長を見守っています。

平成二十七年四月開校

日大藤沢小学校

開校一年目の藤沢小学校

小学校校長 坂庭 眞吾

平成二十七年四月入学の一期生七十二名(男子四十三名、女子二十九名)は、全員が元気に登校しています。学校では学力をつけることが大切です。十月の算数検定では11級(一年生修了程度)四十九名合格、10級(二年生修了程度)二十名合格(受験者全員合格)、9級(三年生修了程度)一名合格という成績で、算数の力はついてきています。さらに十月末に実施した漢字検定、二十八年二月のジュニア

英検でも実力を測定しました。学校では体力、気力など総合的な人間力の育成も大切です。そのため本物の体験を重視した行事として、夏休み中に志賀高原山登り(横手山)を実施しました。六十八名の参加者で全員が元気にこなすことができました。冬休み中にも同じく志賀高原でスキー教室を実施しました。また特別授業として、四月は生物資源科学部前教授の勝野先生による「生き物の

話」、六月は生物資源科学部教授の塚本先生による「ウナギの話」、十月は名古屋大学名誉教授の四方先生による「算数を勉強すること」を実施し、親子で一緒に学ぶ機会として、多くの保護者にも参加していただきました。さらに本校教員による特別授業「紫外線と生き物」、「漢字の歴史」、「タイの食べ物と生活」、「あまり行かない外国」も実施しました。



▲小学校校舎



▲玄関



▲登下校お知らせシステム
登校時・下校時に、昇降口に設置されたカードリーダーに、児童がカードをタッチすると、保護者の方の携帯電話やパソコンに登校時刻・下校時刻を自動でメール配信するシステムを設置しています。



▲手洗い



▲中庭



▲授業風景



▲休み時間



▲体育の授業



▲体育の授業へ



▲昼食の時間



▲授業風景



▲休み時間(校庭)



▲安全対策



▲作法室



▲休み時間が終わり教室へ

クラブ活動状況 高校 友情を育み、未来の可能性を拡げる部活動!!

運動部

【柔道部】

現在柔道部は男子十名、女子十名の計二十名で活動しています。

私たちは日頃の稽古やトレーニングを通して、柔道の競技力向上と一人の人間としてさらなる成長を追い求め日々鍛錬を積んでいます。これまでも数多くの全国大会優勝者を輩出し、長い歴史と伝統のある部活動です。私たち柔道部は、部員一人一人が目指す人物像に近づき、実社会においても有益な人材となるよう活動をしていきます。

URL=http://www.okonomi-club.com/

【剣道部】

一年生五名、二年生五名、三年生七名(男子十一名、女子六名)の部員がいます。

小・中学校から剣道が続けてきた生徒が大半ですが、なかには高校から始めた生徒も在籍しておられ、互いに刺激を受け合いながら日々の稽古に励んでいます。今年度は神奈川県大会の総体予選で男子団体ベスト32、藤沢市民大会では男子個人戦三位などの結果を残しました。今後も学業と両立させながら、段位習得や上位大会進出を目標に稽古に励んでいきます。

二年生二十名、一年生二十四名、マネージャー二名。昨年の春季県大会は、神奈川県八強。夏の大会は四強となり、準決勝で今年の甲子園優勝校である東海大相模に敗れました。惜しまれつつ三年生が引退した後、一・二年生は夏休みから新体制で努力を重ねています。秋季大会では二回戦に今年の準優勝校である桐光学園と対戦し敗れました。その悔しさをバネにセンバツ・甲子園出場を目指し、活気ある練習が日々行われています。

【硬式野球部】

【卓球部】

二年生男子一名、女子四名、一年生男子四名、女子一名、計十名と少ない人数ですが週六日間練習を行っています。二年生を中心に日々真面目に練習に励んでいます。中学生とも一緒にメニューをやり、中・高校生とともに技術向上を目指しています。大会で少しでも成績を残せるよう頑張っています。



卓球部

【バスケットボール部】

現在、男女合わせて十四名で活動しています。

昨年は女子が日本大学体育大会で三位になりました。充実した高校生活を送るよう頑張りますので、応援よろしくお願いします。

【サッカー部】

野田先生、佐藤(輝)先生、三武先生、佐藤(陽)先生、星先生、大久保先生、加藤トレーナー、進藤コーチ、山田コーチ、高橋GKコーチの指導スタッフのサポートで一・二年生七十名(マネージャー四名)の部員が日々練習に励んでいます。

昨年は関東大会・インターハイに出場することができました。新チームも全国大会出場、さらに優勝を目標に心身共に鍛えています。今後ともご支援、ご鞭撻をお願いします。

【ラグビー部】

二年生が八名、一年生が十名で武藤先生、池田先生、小澤監督、向コーチの指導のもと、日々一生懸命活動しています。

土日、祝日の練習にはOBの方々に来ていただき、アタック・ディフェンスなどの練習をしています。また、ウエイトトレーニング、フィットネスの練習メニューを取り入れることで体づくりも大切に行っています。神奈川県での上位進出を目標に頑張っています。

ですが、新たに自分たちで一からチームを作り上げていくメリットもあるの、引退された諸先輩や先生方の力を借りながら目標に向かって日々部活動に励んでいます。

【男子バレーボール部】

一年生十名、マネージャー三名で火曜日から日曜日の週六日活動しています。現在、三年生が引退してしまい、二年生の部員がいなかったため、一年生のみで活動しています。

【女子バレーボール部】

現在、二年生七名、一年生五名の計十二名で活動しています。

体育館を使える日は少ないですが、常に自分たちで課題や目標を設定し、日々練習に励んでいます。

【テニス部】

現在、男子二十名、女子十七名の部員で顧問の先生やコーチ、諸先輩方のアドバイスを受けて活動しています。

部員同士で切磋琢磨しながら大会の本戦での上位入賞を目標に日々努力を続けています。「必勝・和・礼儀」をモットーに感謝の気持ちで大切にしなが練習に励んでいます。今後とも応援よろしくお願いします。

【ソフトテニス部】

女子は十八名、男子は二名で活動してきました。

女子団体は昨年一月の関東選抜大会に出場しました。石井・森ベアは関東予選、総体予選個人の部でそれぞれ優勝し、ハイスクールジャパンカップの決勝トーナメントに出場しました。

【陸上競技部】

現在、三年生十五名、二年生二十二名、一年生十三名、計五

顧問の松浦先生、林先生、藤原先生、齋藤コーチ、OBの方々の協力のもと、日々の練習に励んでいます。

【水泳部】

男子二十五名、女子三十名で、週五、六回の練習を一生懸命に楽しく行っています。

夏は校内の五十メートルプールで、冬は善行の体育センターで活動しています。

毎年県大会、関東大会、全国大会で好成績を残しており、今年度はインターハイに二十四名が出場。日本選手権、インターハイ、国民体育大会などの全国大会でも上位入賞を果たすなど世界でも活躍しています。

日々目標に向かって一回一回の練習を大切に、つらいつらいつらは互いに励まし合いうチームです。今後とも応援よろしくお願いします。

【レスリング部】

日本大学藤沢高等学校レスリング部は、昭和四十二年に創部し、国民体育大会やインターハイなどの全国大会に、多くの選手を輩出してきた歴史と伝統のある部活です。

現在、一年生三名、三年生一名の計四名で活動しています。

【バドミントン部】

現在男女三十三名で、県大会上位入賞を目標とし、日々練習に励んでいます。

新人戦では、あまり良い結果を残すことができませんでしたが、まだまだのびのびと今年度の大会が楽しみですね。



テニス部

今年度も昨年度同様、関東大会に男子200m、女子円盤投げに出場しました。伝統ある日藤陸上競技部の復活を目指して頑張っています。

【体操部】

一年生六名、二年生三名で週六日の練習で日々難易度の高い技へと挑戦しています。

昨年は関東大会、インターハイに三年生が出場することができました。

新人戦では、あまり良い結果を残すことができませんでしたが、まだまだのびのびと今年度の大会が楽しみですね。

今年度は二年生中心のチームとなり、昨年とはまた違った見どころのある演技になります。今後ともよろしくお祈りします。

【ダンス部】

私たちは二十名で活動しています。

主に創作ダンスを中心として、全員で一から作品を作り全国大会出場を目指してきました。

また、日藤祭や体育祭ではチアダンスを発表したり、野球

平成十九年度に同好会としてスタートし、二十一年度に正式な部へと昇格、現在は約七十名という大所帯で活動しています。

【カラテ部】

「明るく楽しく楽しく」をモットーに、正道会館の教則に基づいて日々稽古を行っています。

週に五回程度で短期集中ですので、文武両道を目指すのに最適です。目的は試合出場や昇級、護身術などさまざまです。が、空手をやることで皆の生活がエネルギーに溢れたものになれば良いと思っています。

応援・サッカー応援などでチアガールとしても活動しています。ダンスを通じて互いに高めあいが仲間同士の絆を深め、日々練習に励んでいます。

【バドミントン部】

現在男女三十三名で、県大会上位入賞を目標とし、日々練習に励んでいます。

新人戦では、あまり良い結果を残すことができませんでしたが、まだまだのびのびと今年度の大会が楽しみですね。

今年度は二年生中心のチームとなり、昨年とはまた違った見どころのある演技になります。今後ともよろしくお祈りします。

今年度も昨年度同様、関東大会に男子200m、女子円盤投げに出場しました。伝統ある日藤陸上競技部の復活を目指して頑張っています。

【体操部】

一年生六名、二年生三名で週六日の練習で日々難易度の高い技へと挑戦しています。

昨年は関東大会、インターハイに三年生が出場することができました。

新人戦では、あまり良い結果を残すことができませんでしたが、まだまだのびのびと今年度の大会が楽しみですね。

今年度は二年生中心のチームとなり、昨年とはまた違った見どころのある演技になります。今後ともよろしくお祈りします。

今年度も昨年度同様、関東大会に男子200m、女子円盤投げに出場しました。伝統ある日藤陸上競技部の復活を目指して頑張っています。



バドミントン部

文化部

【新聞部】

部員は現在二年生五名、一年生一名です。

活動日は火曜日と金曜日で、活動時間は各二時間です。新聞発行が近くなると活動回数が多くなることもあり、活動内容は「日藤新聞」の作成、発行です。パソコンを使って、みんなが楽しくむことのできる紙面作りを挑戦しています。部員全員で「新しいスタイルの新聞を作ろう」と頑張っています。新聞作りは取材・記事作成・割り付けなどさまざまなことがでできる楽しい活動です。新しいことを発見することが好き、な人を募集中です。

「君の言葉を発信してみないか」

【文芸部】

部員数七名で小説や詩などの創作を行なっています。

「そらまめ」、「卓上コンロ」、「人生ってなに」という部誌、日藤祭のためのリレー小説や文化祭テーマ冊子、新入生歓迎会のための「枝豆」の計六種類を毎年発行しています。

「神奈川県高校文芸コンクール」、「伊藤園お〜いお茶新俳句大賞」には毎年応募しています。

少人数ですが、多彩な活動をしています。

【演劇部】

現在四十名で活動しています。

平成二十七年年度は、湘南地区高校演劇発表会で創作劇『ケンジントン公園のピーターパン』を受賞し、県大会に進出しました。

普段は週五回の活動を行っており、演技だけでなくダンスや殺陣などを練習に取り入れています。芸術系大学へ進んだ卒業生やプロの舞台俳優を招いての稽古も行っているほか、日藤祭発表やテレビ出演など精力的に活動しています。

【写真部】

現在三年生七名、二年生二名、一年生一名で、主にデジタル写真の撮影やコンピュータとプリンターを使用して作品制作をしています。

神奈川県高校写真真連盟に所属し、連盟主催の写真コンテストに参加・応募し、特選をはじめ各賞を受賞しています。夏休みの合宿では、二泊三日で日本各地の名所旧跡へ出かけていき、普段撮影できない被写体を撮影し技術の向上を目指すとともに部員の結束を強めています。

【コーラス部】

三年生十四名、二年生二名、一年生三名の計十九名で週三回中学生と合同で活動しています。

活動内容は、新入生歓迎会、日藤祭、慰問、校内合唱コンクールでの発表、県合唱祭に参加しました。春休みに実施している合宿は、基礎学力テストの関係で中止なり残念でしたが、日々の練習に力を入れ、和気あいあいとした雰囲気なか、けじめをつけて練習を行っています。今後心のもった合唱を披露できるような頑張ってください。

【吹奏楽部】

部員は高校生十七名、中学生九名が加わり、高校生が合計五十九名、中学生十七名、計七十六名で活動しています。

学校行事やオープンエアシアターでの演奏など多くの方々に演奏を聴いて

【電気物理部】

三年生十三名、二年生五名、一年生五名で週六回交代制で活動しています。

主な活動内容は、生徒主体の物理実験、日本大学理工学部精密機械工学科指導のもとロボットの製作および大会参加、宇宙エレベーター協会主催の大会参加です。

URL: <http://www.nitwo.net/>

【茶道部】

二年生八名、一年生七名の計十五名で、毎週水曜日と木曜日に作法室で、講師の先生のご指導のもとお稽古をしています。

日藤祭では、立礼（りゅうれい）による薄茶を大勢の方々に召し上がっていただくことができ、詳しくはホームページをご覧ください。

【家庭部】

平成二十七年年度は三年生六名、二年生六名、一年生九名の合計二十一名で活動しました。

毎週木曜日を基本とし、本館四階の調理実習室で調理や裁縫をしています。日藤祭では、恒例のクッキーの販売をし、大変好評でした。今年度は、夏休みに大学の施設で食品加工実習をさせていただきました。鎌倉女子大学主催のお弁当作り園に応募したり、新しい活動も加えることができ、今後いろいろなことに挑戦したいと考えています。

【生物部】

高校生十三名、中学生十六名で活動しています。

活動内容は、飼育している動物（シヤモトカメ）の世話と植物の栽培、生物に關する実験を行っています。

日藤祭では恒例の金魚すくいも盛りだくさんで、昨年度より取り組んでいた透明標本の作成・展示を行いました。

生き物が好きな中学生・高校生で楽しく活動しています。

【天文部】

高校生七名、一年生十一名に加入し、中学生九名で活動しています。

主に日藤祭に向けてプラネタリウムの練習や、身近な天文現象を通して宇宙について学んでいます。ほぼ隔月で実施している観測会では、星夜を撮ったり星座や惑星を見たりしました。

夏休みには大型望遠鏡がある新潟の施設で合宿しました。数年ぶりですが、恵まれず、夜空を見ることがほとんどできず、残念でした。全員が仲良く楽しんで活動しています。

【英語部】

三年生八名、二年生一名、一年生五名の合計十四名で洋楽や洋画を通じて英語を学ぶ活動を続けています。

今年度は、ドイツや英語劇など話すことを中心に活動を行いました。日々の部活内容は、部員一人ひとりの意見を

【鉄道研究部】

高校生一名、中学生六名の個性豊かな七名で毎週月、木曜日に活動しています。

日藤祭ではミニS.Lの運行や巨大ジオラマの展示を行っており、毎年大好評です。今年度も「全国高等学校鉄道模型コンテスト」に出場し、「横浜今昔物語」という作品で理事長特別賞を受賞しました。地上には未来都市など未来を、地下には明治、昭和、平成の桜木町駅を再現しました。次回のコンテストでも上位入賞を目指します。

【書道部】

一年生九名で、水曜日と土曜日の週二日、中学生と一緒に活動しています。

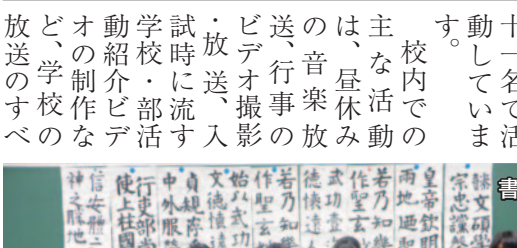
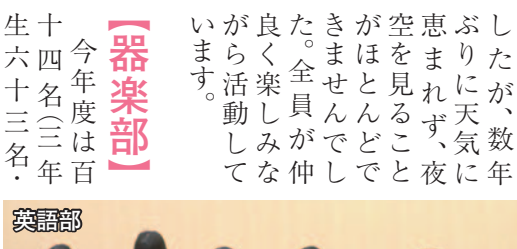
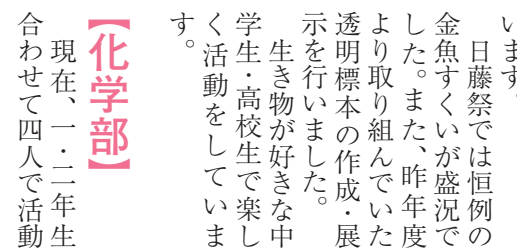
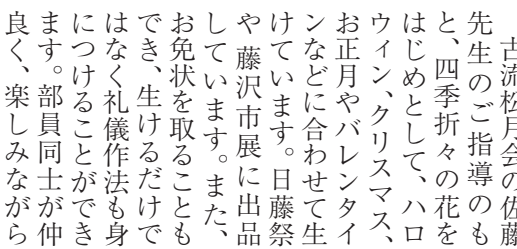
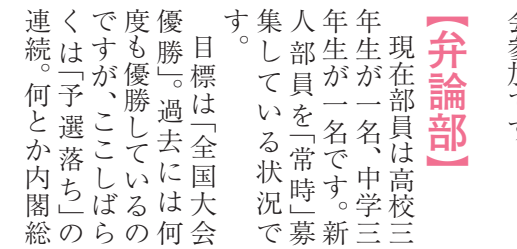
活動内容は、楷書・行書・草書の臨書、仮名の練習、大字の創作などで、幅広く取り組んでいます。また、神奈川県高等学校総合文化祭や全日本書き初め大展開会などへの参加や出品を予定しています。書道部は今年度に再開したばかりの部です。これからさらに上を目指し、多くの賞を取れるように頑張りたいと思います。

【放送部】

二年生三名、一年生十一名で活動しています。

校内での主な活動は、昼休みの音楽放送、行事のビデオ撮影・放送、入試時に流す学校・部活動紹介ビデオの制作など、学校の放送のすべてを管理・運営しています。

主な大会は「NHK杯」、「総合文化祭」、「アンデパンダ大会」の年三回。アナウンスや朗読、ラジオドラマ、ドキュメント制作などの部門に出場し、全国大会への出場を目指して日々活動しています。



クラブ活動状況 中学 協力し、努力し、学校生活を明るく 楽しくする活気溢れる部活動!!

運動部

【柔道部】

現在は男子部員一名のみですが、未経験者の生徒も受け入れられることのできる体制を整えています。礼儀作法や受け身等基本的なことをはじめ、実践での技術はもちろん、集団生活の中での協調性を育みながら人間としての成長を目指しています。また、普段は高校生が丁寧な相手をしてもらっているため、よりレベルの高い練習を積むことができています。文武両道を実践することのできる生徒の入りをお待ちしています。

【軟式野球部】

五期生の三年生七名が引退し、現在は二年生七名、一年生五名の総勢十二名で、創部以来の目標である「藤沢制覇」の達成を目指して活動しています。昨年、秋の新人戦では初めて準優勝という結果を残すことができました。今年大会では目標を達成できるように、全員で「一所懸命」の精神で練習に取り組んでいます。



軟式野球部

【剣道部】

一年生四名、二年生二名、三年生三名（男子四名、女子五名）の部員がいます。

【卓球部】

二年生男子五名、女子六名で活動しています。高校生の手厚い指導のもと、週五日間基礎の定着と技術向上のため、学校での部活動はも



剣道部

て、週五日間基礎の定着と技術向上のため、学校での部活動はも

【サッカー部】

三学年合わせて二十五名で、週五、六回活動しています。部員全員でサッカーを楽しみつつ、一つでも多くの勝利を目指して日々励んでいます。経験者も未経験者も一緒にチーム全体の技術向上を目標に一生懸命練習を行っていますので、応援をよろしくお願いします。

【ラグビー部】

現在、部員が一年生二名しかおりませんが、高校生と一緒に活動しながら頑張っています。高校生はとも優しく、チームも良い雰囲気です。中学から高校までの六年間の学校生活をラグビーを通してより楽しいものにしたと思います。

【男子バレーボール部】

今年度は部員がいないので活動はしていませんが、体力面だけでなく精神的にも成長できるように、基本的な生活や社会のルールを守ることを第一だと考えています。また、高校に入学した後もバレー部として活躍できるように人材を育てています。

【陸上競技部】

現在、男子十五名、女子十一名の合計二十六名で各種大会の県大会出場を目指して毎日練習に励んでいます。秋の新人大会では個人・リレーともに入賞するなど、新年度に期待のできる結果を残しました。記録だけではなく人間性の向上を目指してさらに頑張っていきたいと思っ

【女子バレーボール部】

三年生六名、二年生三名、一年生六名の計十五名で活動しています。活動場所は主にコートです。基礎練習を中心に平日週四回練習しています。部員はみんな元気で和気あいあいとして楽しく活動しています。バレーを楽しみ、バレーができる環境に

感謝する心が育つような部となること、今後の目標です。

【テニス部】

現在、男子三十二名、女子二十七名の部員で活動しています。人数が多く、コートを使用できる時間も限られています。走り込みで体力作りをし、毎日工夫しながら練習に取り組んでいます。各大会の本戦出場、団体戦ベスト16以上を目標に、チーム一丸となって頑張っています。

【文芸部】

部員数は現在八名。詩や小説などを創作し、「珈琲豆」、「リズムリフ」という二種類の部誌を作っています。今年度は鎌倉文学館子ども文学賞に応募し、一名が入選しました。「伊藤園のお茶新俳句大賞」にも毎年作品を送っています。春休みには、横浜方面へ文学散歩に行き、神奈川県立近代文学館などを見学する予定

【演劇部】

現在十五名で活動しています。平成二十四年度は、二つのコンクールで最優秀賞を受賞しました。平成二十五年年度は、神奈川県学校演劇交流フェスティバルで神奈川県中学校代表として発表を行っています。平成二十七年年度は神奈川県私立中学演劇コンクールで奨励賞を受賞しました。普段は週四回の活動を行っており、演技だけでなくダンス

文化部

【新聞部】

現在中学生の部員はいませんが、日藤新聞を作る中学生を募集しています。中学生らしい感性で新しい聞を作り、日本大学藤沢中学校の新しい

歴史を記して欲しいと思います。新聞作りは、取材、記事作成、割り付けなど、さまざまな面があり、一人ひとりの得意なことや個性が生かせるものです。意欲のある部員を待っています。

【コーラス部】

三年生四名で、月・水・木曜日の週三回、高校生と合同で活動しています。活動内容は、新入生歓迎会、日藤祭、老人保健施設への慰問、校内合唱コンクールでの発表です。十二月には高文連の県合唱祭に参加しました。いろいろな発表や大きなステージで合唱することで多くのことを学びました。この経験を今後の練習に活かしたいと思っ

【弁論部】

中学三年生が一名、高校三年生が一名で活動しています。中学校の弁論という、「大人がよろこびそうな、お利口さん型の発言」といったイメージが強いのですが、そんなことはありません。自分の意見を論理的に組み立てていき、相手を説得するための技術を学ぶのがねらいです。だから、ほとんどの場合、国語の実力も養われます。

【吹奏楽部】

三年生五名、二年生三名、一年生九名の計十七名が高校生とともに日々活動しています。学校行事やオープンエアシアターでの演奏会を高校生とともに創り上げています。今年度も多くの部員が入部し、日々熱心に練習を重ね、より良い演奏をしようとして、高学年に囲まれながら切磋琢磨しています。現在は三月二十五日、藤沢市民会館大ホールでの第三十二回定期演奏会に向けて、部員一同練習に励んでおり、来場ください。ぜひご来場ください。詳しくはホームページ

【電気物理部】

三年生五名、二年生四名、一年生七名の計十六名で週六交代制で活動しています。主な活動内容は、生徒主体の物理実験、日本大学理工学部精密機械工学科指導のもとロボット製作および大会参加、宇宙エレベーター協会主催の大会参加です。

【華道部】

現在七名で、高校生と一緒に月曜日に作法室でお稽古をしています。古流松月会の佐藤先生のご指導のもと、四季折々の花をはじめとして、ハロウィン、クリスマス、お正月やバレンタインなどに合わせて生けています。日頃の成果を日藤祭で発表しています。また、お免状を取ることでもでき、礼儀作法も身につけることができます。

【天文部】

中学生九名と高校生十九名で活動しています。普段は、日藤祭でのプラネタリウム練習や、宇宙について学んでいます。ほぼ隔月で実施している観測会では、星夜を撮ったり星座や惑星を見たりしました。夏休みには大型望遠鏡がある新潟の施設で合宿しましたが、天気にも恵まれず、夜空を見ることがほとんどできませんでした。

【生物部】

現在十六名で、高校生と一緒に活動しています。活動内容は、飼育している動物（シヤ）



生物部

モトカメの世話と植物の栽培、生物に関する実験を行っています。夏休みには合宿をしています。今年度は、観音崎にて海の生物の観察、海ほたるの採集、森の散策などを行いました。

【放送部】

二年生五名、一年生六名で活動しています。主な活動は、昼休みの音楽放送、行事のビデオ撮影・放送、アナウンスや朗読の練習などです。放送機器の扱い方やビデオ編集の方法、発声・発音の方法などの基礎を高校の先輩やコーチから学ぶことができます。



放送部

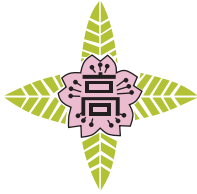
【鉄道研究部】

私たちは現在六名で高校生とともに、鉄道模型製作や撮影会などの活動を行っています。また夏に開催される「全国鉄道模型コンテスト」に出場し四年連続入賞を果たしています。さらに日藤祭では毎年野外でのミニSLの運行や今までのコンテスト作品を加えた他校では類を見ない巨大レイアウトの展示を行っています。ぜひお越しください。

今年度再開したばかりの部ですが、ここ一つと取り組んでいます。活動内容は、楷書や行書の臨書、大学の創作などです。また、小学生との交流会に参加したり、柔剣道大会の名札書きをしたりしました。今後は全日本書き初め大賞展などへの出品を予定しています。練習に根気よく取り組み、多くの賞を取れるように頑張っていきたいと思っ

今年度再開したばかりの部ですが、ここ一つと取り組んでいます。活動内容は、楷書や行書の臨書、大学の創作などです。また、小学生との交流会に参加したり、柔剣道大会の名札書きをしたりしました。今後は全日本書き初め大賞展などへの出品を予定しています。練習に根気よく取り組み、多くの賞を取れるように頑張っていきたいと思っ

日大藤沢と共に



一年を終えて

中学校教頭 加藤 隆樹 (平成27年着任)



四月八日、押尾校長の『目的を見つけないさい』という始業式の言葉で平成二十七年年度が始まった。

中学での四月最初の行事は、中学一年に対してのオリエンテーションである。この行事は学年主任や担任から教務や生活指導、生徒会について説明がされ、また生徒の親睦を深めるためのレクリエーション(ドッジボール・大縄飛び・リレーなど)が行われた。中学に入学生徒たち皆が、仲良く行動できるだろうかという担任の心配をよそに、お互いに声を掛けあい、助け合い、大変盛り上がった。その後、中学全

体が日藤祭の準備を始める中で、一致団結することの大切さや難しさ、また期日を守り、協力して仕上げることの責任感を学んだ。また一方で、『いのちの大切さ』についての講演を聞き、相手を気遣うこと、思いやることの大切さについて理解を深めた。勉強面では、普段の授業では理解しきれない生徒に対して、希望制特別放課後補習や長期休暇中に計画される特別授業・特別補習を行い、勉強の土台となる中学の内容の理解に各学年で努めた。運動面では球技大会、体育祭、マラソン大会を行い、クラスの親睦や高校生との親睦も深めてきた。また、二年の林間学校では、『目・耳・心で話を聞いて理解し、行動に移す』ことを目標に取り組み、三年の修学旅行では『心に残る最高の

秋にしよう』という目標を生徒自らが立て、予備知識を持った上で取り組んだ。生徒はいろいろな体験を通して成長がうかがえる。ただし、今はまだ与えられたものを何とかこなすという場合が多いように思う。しかし、本来の成長は与えられたものをこなすことだけで達成されるものではない。自分の積極的な取り組みが加わり、初めて発展につながる。自分の視野を広げられ、たくましく生きていけるのである。自分の目標(夢)を見つけるといふ行動(積極性)も含めて、その一歩をぜひ踏み出してみたい。



新任の先生紹介

本校に着任された先生方のご挨拶です。

仕事の尺度

教諭 布川 誠(平成26年着任)



日大藤沢の専任教員として勤務を始めて、間もなく二年が経とうとしています。平成二十三年に非常勤講師

として赴任し、日藤自体は五年目になります。非常勤講師として勤務していた頃と比べると、今までの仕事で氷山の一角だったことに気付かされます。と同時に、仕事へのやりがいや面白みも増しているということがあります。私の出身は新潟

県新潟市で、実家は新潟空港から歩いて十分というところ。高校ではウエイトリフティング部に所属し、日大へ進学後も競技を続けていました。卒業後に文理学部にて科目履修制度を利用して教員免許を取得し、今に至っています。大学四年次に就職活動を経験しましたが、自分が本当にやりたい仕事、やりがいを持って

仕事とは何かと考えたとき、自分の道を決めるのにその時間はかかりませんでした。現在は高校一年生の担任をさせていただき、毎日生徒と奮闘する日々を過ごしています。一人一人がほとばしるほどのエネルギーと明確な目的意識をもって学校生活を過ごしてくれているの、私自身も生徒たちから刺激をも

らうことが非常に多いです。生徒の日常や心情の変化を見守りながら、楽しく仕事ができています。時には一喜一憂しながらも、さまざまな物事に対して全力でぶつかっていく生徒の姿を見ることに喜びを感じています。私が専任教員になる直前に、ある先生から「私たち教員の仕事とは何か」という質問をぶつ

けられたことがありました。その時は外的なことをしどろもどろ答えられなかった。その時、私たちが教員の仕事のためは「生徒のため」、「学校のため」の二つだと教えられました。本質は、生徒を伸ばすこと、生徒を前に進めることではないかと、日頃仕事をしているときつい思い浮かぶことがあります。

ですが、疲弊したとき、疲れをいっしょに受けたいと思います。私がお後、生徒と学校のためには、私たちが教員として誇りを持って日々と精進していきたいと思えます。

二年目をむかえて

教諭 増山 千尋(平成26年着任)



日大藤沢高校に着任して二年目となりました。生徒

と共に多くのことを学びながら、たくさんの思い出を作らせていただいています。初めて担任をしたクラスは高校一年生でした。日藤の事を生徒に教えるという事、生徒

つひとつ学ぶ毎日でした。勉強や部活に真面目に取り組む一方で、生徒の行事に対するやる気と団結力には目をみ張るものがありました。特にそのことを実感したのは合唱コンクールでした。放課後に教室に残って練習し、ときにぶつかり合いながら

も合唱を作り上げていく姿はとて素晴らしい目標としていた。優秀賞をとることはできませんでしたが、ひたむきに頑張ることの大切さと仲間と何かを作り上げる素晴らしさを感じました。担任として生徒と分かち合えたことは、幸せだ

と思います。コンクール後も会場の外で円をつくり、合唱曲をクラスみんなで歌っていた姿は、今でも忘れられません。今年度は高校二年生の担任をしています。特に思い出すのは、修学旅行です。生徒とともにさまざまな場所を巡り、

英語やカナダ・アメリカの文化に触れました。大きな事故もなく無事に帰国できたのは生徒の協力があってこそだと思っています。生徒と多くの時間を共有する中で、普段見ることのできない一面を見つけないこともできる。の多い旅行でした。

最後に、生徒だけでなく数多くの先生方に教えていただき感謝申し上げます。教員生活を続けることができています。そのことを忘れずにこれからも頑張っていきたいと思えます。

初年度を振り返って

教諭 松井 優希(平成26年着任)



日本大学藤沢高等学校・中学校に着任してから二年が経とうとしてい

ます。着任してから訪れる毎日はあつという間ですが、日々新たな発見や反省、喜びなどがあり大変充実しております。昨年度の四月、二年生の学級担任となりました。初めて担任として学

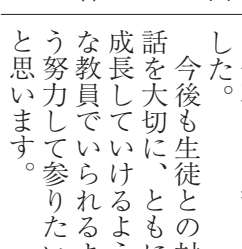
級を運営していくなかで、生徒から教えられることや気付けられることが沢山ありました。なかでも四月当初に二者面談をしたときのことは、とても印象に残っています。ある生徒は、将来の目標について聞いた際、プロスポーツ選手になりたいと話してくれました。そ

してそのために日々の練習に目標を持って貪欲に取り組んでいることや、苦しい時にこそもうひと頑張りをするという話も話してくれました。その言葉に「はつ」と「せ」を同時に、日大藤沢には生徒が夢を真剣に語ることができるといふ環境

に深く心を動かされました。そして私も、一人一人が夢や目標を実現するためにできるよと頑張っていることを強く思いました。また、他の先生にアドバイスをいただいたり、毎日短い時間でも学級の生徒一人一人とコミュニケーション

をとり、よく話すことを心がけました。学級に起きる小さな問題点や、生徒が個々に考えていることを知り、ときには一緒に課題を解決すること、良好な信頼関係を築くことができたのではないかと感じています。ホームルーム活動や各行事などを通じて学級にも一体感が

生まれ、生徒たちが自ら進んで行動するようになり、対話を重ねながら問題点を解決し、良い方向へ導いていくこと大切さを学びました。今後も生徒との対話を大切に、ともに成長していけるよう教員でいられるよう努力して参りたいと思えます。



日大藤沢同窓会総会報告

常任幹事 柳沢 昭夫 (昭和 53 年卒)

平成二十七年年度の総会は、平成二十七年六月六日(土)午後二時から、日本大学生物資源科学部NUSホール二階で開催されました。昨年と同様に会場は、役員等が会場となり、会場には来賓、現職職員、会員など昨年と同様に百二十人ほどが集まりました。

総会の司会は、副会長長の柴田博和氏(51年卒)が担当しました。

まず、加藤同窓会会長(44年卒)から日頃の同窓会活動に対するお礼があり、

四月には日本大学として初めての小学校が開校し、この湘南キャンパスが活気にあふれているとの挨拶がありました。

今年度は、役員の変更があることから、自身の体調の関係から今年度で会長を辞し、より同窓会活動を活性化させることから、若手に託したいとお話がありました。

来賓として、本年四月から着任した押尾校長から、改めて本校校長として重責を感じており、全力をもって職務にあたることと、今までも



写真提供 アイザワ写真館

同様に、同窓会、後援会とともにさらなる協力関係を作りたいと話されました。

引き続き、来賓の後援会長である佐藤常男氏から後援会活動に対するお礼がありました。

来賓の挨拶の後は、議事に移り、議長は石井氏(53年卒)、書記は下川氏(53年卒)を選出し、議事審議に入り各議題に対し報告。新会長に横濱市議会議員でもあり坂井氏(61年卒)が満場一致で選出され、滞りなく終了しました。

懇親会は、会場を二階から三階に移し、開催されました。司会進行は熊田氏(52年卒)が担当しました。

開式に先立ち、選出された新会長の坂井氏から、「先輩たちが築きあげてきたこの同窓会活動をさらに発展させ、活気のある同窓会を作っていきたい」との挨拶がありました。

来賓の生物資源科学部の金山喜一教授から、学部長及び事務局長が公務出張のため参加することができなく大変残念であるとお詫びがありました。本学部直系の付属校である藤沢高等学校・中学校は県内有数の進学校と

なり、近年では日本大学のみならず、有名私立大学や国立大学に進学する生徒もふえており、できれば難関国立大学に多進学してもらいたいとお話がありました。

今年も昨年と同様に若い同窓生の参加が目立つようになり、新会長の挨拶にあって、同窓会活動を活発化するには若い同窓生の参加は不可欠と考えます。それにはどのような方策が必要であるか、また、参加しやすい環境を作っていくか課題は多々ありますが、会員の皆さまの意見をいただきながら今後の同窓会運営に生かしていきたいと考えています。

時間は瞬く間に過ぎ、閉会の辞が述べられ、来年の再会を楽しみに散会となりました。



懇親会の様子



総会の様子

日藤祭の模擬店実施報告

教諭 千田 浩子 (平成 16 年着任)

日藤祭恒例の後援会主催の模擬店。今年も日藤祭の2日目、後援会・同窓会の協力のもと、つきたての餅とキユウリの販売が行われた。

この行事は、後援会として中学校・高等学校併せて行う最も大きな行事であるため、多くのクラス幹事の方々の参加があり、活気ある模擬店となった。クラス幹事の皆さんがマニユアルを作ってお下され、手際よく進められた。

当日はあいにく雨のぱらつく天気だったが、先生方、事務職員、教育実習生など順番に杵を振り下ろし、次々に餅ができていき、たくさんのお客さんで賑わっていた。



事務局 だより

事務局 三武 蒼生 (平成 11 年卒)

平成二十七年より「日本大学藤沢小学校」が開校しました。一学年七十二名で二学級の編成となっています。五年後には全学年が揃います。小学校から高等学校まで十二年間を一貫して教育できる学園となります。

中学校に対しての支援は、卒業生の中で、学校が奨励している検定関係や課外活動で顕著な成績をおさめた生徒に卒業式で同窓会長賞として賞状と記念品を贈ること、生徒対象の講演会や教員対象の研修会を企画・援助

お知らせ

同期会、クラス会など実施の際、通信費などの補助金が出ますので事務局まで一報ください。

※開催の日時、場所、出席者人数、領収書などが必要となります。

●学校のホームページ
<http://www.fujisawa.hs.nihon-u.ac.jp/>

【教職員の動向】

・転勤(異動)	梅原 展子 (保健体育)	平成二十七年四月
	坂庭 眞吾 (理科)	
	白拍子 新 (英語)	
	土田 政志 (保健体育)	
	永吉 直文 (国語)	
平成二十七年五月	杉崎 穰 (事務)	
・着任(新任)	小杉 翔一 (数学)	平成二十七年四月
	太田 薫 (保健体育)	
	振屋 健司 (地歴公民)	
	矢後 匡平 (事務)	
平成二十七年四月	加藤 隆樹 (数学)	平成二十七年四月
	中野 万里子 (事務)	
平成二十七年七月	金井 孝史 (事務)	
・退任(定年)	原 正 (地歴公民)	平成二十七年四月
	井澤 久廣 (数学)	平成二十七年八月
	石井 節雄 (保健体育)	平成二十八年二月
平成二十七年三月	黒岩 健人 (英語)	

■日大藤沢同窓会各支部長 および支部担当教員名簿

役職名	氏名	卒業年
西湘支部 昭和63年設立		
支部長	田淵 秀一	昭和41年
担当教諭	越山 裕之	
	佐藤 陽介	平成18年
横須賀支部 平成5年設立		
支部長	津島 哲夫	昭和46年
担当教諭	渡辺 博	
	苗村 佳則	
藤沢支部 平成8年設立		
支部長	長瀬 英夫	昭和36年
担当教諭	齋藤 俊介	平成17年
	布川 誠	
鎌倉支部 平成8年設立		
支部長	柴田 幸雄	昭和42年
担当教諭	飯田 章	平成13年
	小口 愛	平成13年
茅ヶ崎支部 平成9年設立		
支部長	岡 甫	昭和34年
担当教諭	植村 弘	平成11年
	小杉 翔一	
横浜支部 平成13年設立		
支部長	飯田 昌巨	昭和38年
担当教諭	林 洋平	平成17年
	堀内 景介	
湘南支部 平成14年設立		
支部長	井上 蔚美	昭和36年
担当教諭	大貫 保	
	池田 直哉	

■日本大学藤沢高等学校・藤沢中学校同窓会 役員名簿 (平成 27 年度～平成 28 年度)

役職名	氏名	卒業年	役職名	氏名	卒業年	役職名	氏名	卒業年
名誉会長	押尾 良仁	—	同	松本誠一郎	昭35	同	石井 敦	昭53
顧問	広田 和夫	昭27	同	高橋 正人	昭35	同	下川 幹生	昭53
同	青木 春夫	昭29	同	高橋 正昭	昭37	同	猪俣 浩範	昭54
同	水嶋 雅之	昭31	同	飯田 昌巨	昭38	同	加藤 有一	昭55
同	大島 正義	昭33	同	相澤 實	昭38	同	杉崎 隆之	昭58
同	小菅 昭治	昭39	同	三養 英雄	昭38	同	三養 治彦	昭59
同	加藤 正美	昭44	同	鴨志田 勲	昭38	同	加藤 孝幸	昭60
会長	坂井 太	昭61	同	軽部 信行	昭38	同	市川 和広	平2
副会長	岡 甫	昭34	同	山崎 薫	昭38	同	山本 昇平	平2
同	井上 蔚美	昭36	同	川尻 カツ江	昭38	同	吉野 道夫	平2
同	長瀬 英夫	昭36	同	岩崎 良春	昭40	監査	楠本 文雄	昭52
同	大原 春代	昭38	同	米澤 政道	昭40	同	加藤 隆樹	—
同	柴田 幸雄	昭42	同	平井 審	昭41	同	宇久田進治	昭39
同	津島 哲夫	昭46	同	関根 直樹	昭43	事務局	安藤 友之	—
同	田淵 秀一	昭41	同	江沢 進	昭45	同	中野万里子	—
同	熊田 成之	昭52	同	藤井 正気	昭45	同	石塚 直仁	昭51
常任幹事	佐藤 兼一	昭34	同	山口多喜子	昭47	同	山本 秀明	平1
同	山口 晴義	昭34	同	米山 信治	昭47	同	植村 弘	平11
同	佐藤 清一	昭34	同	関田 周三	昭48	同	三武 蒼生	平11
同	新橋 康悦	昭34	同	上田 陽子	昭48	同	小口 愛	平13
同	菅井 浩明	昭34	同	桑原 潔	昭49	同	飯田 章	平13
同	田沢 弘雄	昭34	同	柴田 博和	昭51	同	齋藤 俊介	平17
同	田中 勝治	昭35	同	原田 亮	昭51	同	林 洋平	平17
同	鈴木三四郎	昭35	同	野崎由紀一	昭52	同	佐藤 陽介	平18
同	田淵 親光	昭35	同	柳沢 昭夫	昭53			

■日本大学藤沢高等学校・藤沢中学校 教員名簿 (平成 28 年 3 月 1 日現在・アイウエオ順)

役職	担当教科	氏名	着任年	役職	担当教科	氏名	着任年	役職	担当教科	氏名	着任年	役職	担当教科	氏名	着任年
校長	英語	押尾 良仁	平成 25	教諭	理学	小口 愛	平成 24	教諭	数学	高木けい子	平成 14	教諭	情報	堀内 景介	平成 20
副校長	保健体育	楠本 文雄	昭和 58	教諭	数学	小野 圭一	昭和 57	教諭	保健体育	武田 悦夫	昭和 50	教諭	地歴公民	増山 千尋	平成 26
中学校教諭	数学	加藤 隆樹	平成 27	教諭	数学	海沼 茂子	昭和 49	教諭	国語	千葉 篤胤	平成 25	教諭	地歴公民	松井 優希	平成 26
教諭	地歴公民	飯田 昌巨	平成 9	教諭	英語	加藤 寿美子	平成 13	教諭	数理学	戸井田 望	平成 21	教諭	英語	松浦 美和子	平成 23
教諭	英語	池田 直哉	平成 21	教諭	英語	加藤 達哉	平成 15	教諭	英語	苗村 佳則	平成 22	教諭	理科	三田 陽子	平成 20
教諭	英語	池田 直哉	平成 19	教諭	英語	菊地 さやか	平成 20	教諭	英語	長岡 正浩	平成 16	教諭	理科	三武 蒼生	平成 19
教諭	英語	池田 直哉	平成 8	教諭	英語	北島 寛明	平成 25	教諭	英語	長澤 希	平成 26	教諭	保健体育	武藤 周	昭和 59
教諭	英語	石井 利春	平成 4	教諭	英語	越山 裕之	平成 4	教諭	英語	水嶋 雅之	平成 13	教諭	保健体育	加藤 孝幸	昭和 55
教諭	英語	石井 利春	平成 14	教諭	英語	小林 真由美	昭和 50	教諭	英語	永塚 桂子	平成 26	教諭	英語	山本 昇平	平成 20
教諭	英語	石井 利春	昭和 55	教諭	英語	齋藤 俊介	平成 24	教諭	英語	布川 誠	平成 11	教諭	英語	山本 渡辺	昭和 61
教諭	英語	井村 直子	昭和 61	教諭	英語	佐々木 孝徳	平成 9	教諭	英語	沼尻 和明	平成 26	教諭	英語	小杉 翔一	平成 27
教諭	英語	上田 泰輔	平成 22	教諭	英語	佐々木 孝徳	平成 23	教諭	英語	根岸 悠治郎	昭和 50	講師	英語	太田 健司	平成 27
教諭	英語	植村 弘	平成 18	教諭	英語	貞清 輝勝	平成 18	教諭	英語	野田 徑	平成 24	講師	英語	太田 健司	平成 27
教諭	英語	薄井 保	平成 16	教諭	英語	佐藤 陽介	平成 17	教諭	英語	服部 洋幸	平成 25	講師	英語	太田 健司	平成 27
教諭	英語	薄井 保	昭和 50	教諭	英語	佐藤 陽介	平成 22	教諭	英語	林 哲夫	平成 元	講師	英語	太田 健司	平成 27
教諭	英語	薄井 保	平成 24	教諭	英語	佐藤 陽介	平成 17	教諭	英語	原田 亮	平成 15	講師	英語	太田 健司	平成 27
教諭	英語	薄井 保	平成 11	教諭	英語	佐藤 陽介	平成 16	教諭	英語	藤原 亮	平成 20	講師	英語	太田 健司	平成 27